

## ナショナル・バイオリソース・プロジェクト

### 中核拠点整備プログラム・広義キク属 令和元年度運営委員会議事録

令和元年 12 月 25 日(水)

於 広島大学統合生命科学研究科附属植物遺伝子保管実験施設

10:30～11:30 於 広島大学理学研究科 A 棟 A306

#### 特別講演

谷口研至 先生(広島大学)

「思い通りにキクをデザインする ―形質の分解と構築―」

#### 施設見学

#### NBRP 広義キク属運営委員会

13:00～16:30

於 広島大学理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設

#### 出席者

課題担当者: 草場 信(代表機関課題管理者・広島大学)、谷口研至(広島大学)、中野道治(広島大学)

運営委員: 柴田道夫(委員長・東京大学)、中田政司(富山県中央植物園)、奥村義秀(愛知県農業総合試験場)、深井誠一(香川大学)、松田一彦(近畿大学)、佐藤豊(国立遺伝学研究所)

オブザーバー: 笹土隆雄(AMED)、鈴木智広(NBRP)、小塚俊明(広島大学)、信澤岳(広島大学)

#### 報告事項

##### 1. 令和元年度 業務進捗状況 事業計画書に基づいた報告

###### ①リソースの収集

リソースの収集状況について

- ・懸案であった二倍体種イワインチンの収集が行われたについて、今年度採取し寄託が行われた。
- ・目標系統数を達成の見込みである。

###### ②リソースの保存・バックアップ

- ・個体リソース系統数整理の方針であることが報告された。
- ・中田委員よりバックアップの状況について概ね問題はない旨説明があった。また、今後の担当委員の交替の可能性について報告された。

###### ③リソースの提供

草場より提供の実績について、個体リソースは提供件数・利用者数ともに目標数を達成見込みであること、一方、DNA リソースに関してはいずれも目標達成は難しいことが報告された。海外への提供が伸びているものの、国内への提供に力を入れるべきであることが指摘された。

###### ④品質確保・高度化

Ploidy Analyzer を用いた倍数性の評価の現状とデータベースの状況について説明が行われた。Ploidy analyzer での解析に関しては必要に応じて顕微鏡観察を行う必要性が指摘された。

#### ⑤事業の総合的推進

論文発表・学会発表等の状況について報告された。特に EUCARPIA ornamentals への参加が有効であった旨報告があった。運営委員会への大学事務担当者の参加についても検討していくこととなった。

#### 2. 第4期中間評価・ヒアリングの報告

第4期中間評価・ヒアリングの結果について報告が行われた。評価は「概ね計画通りの進捗が認められ、課題を継続することが妥当」というものであった。

### 審議事項

#### 1. 第4期中間評価に対する対応について

主に「他のリソースを利用している植物研究者を積極的に呼び込んでいく戦略」について検討された。

・キク研究の特徴が分かりやすいデータベースの作成、有用二次代謝物に注目した品質高度化、キク種苗会社を運営委員への招聘などが検討された

#### 2. キク属ゲノム塩基配列決定の進捗について

キク属及び近縁属の全ゲノム配列決定の国際的情勢、H30年度に採択されたゲノム情報等整備プログラムにより、Gojo-0の染色体レベルでの高精度配列が得られそうであるとの見通しが報告された。

#### 3. 広義キク属研究 最近の話題

Gojo-0のゲノム配列を活用したポジショナルクローニングの取り組みについて報告された。